

Middelfart 精神障害者、自然保育園、フリースクール

(1) 精神病院歴史博物館

1888年に作られた男女各600床ずつ1200床の精神病院があった場所の一角に精神病院歴史博物館が設けられている。2人部屋で鍵のかかる病室の様子や患者の生活の様子、治療の様子など100年以上の歴史が説明されている。1950年以前は治療法が確立していなかったため、通常の生活できない人を収容する施設だった。それ以降に電気治療や薬物治療がはじまった。

説明してくれた二人の職員は元精神病院の職員とのこと。



精神病院は1999年に解体され、今建物はヘルパー養成学校や民間の企業の事務所などに使われている。

マロニエの実が落ちていた。中の実は栃と見分けが付かないが果実には角があるので、「何だろう」と眺めていると。通りがかった地元の人が「動物が食べるものだよ」と英語で教えてくれた。味は栃の実と同じように渋かった。



(2) 支援センターの付いたアパート

精神病院から出た精神障害者は街の中でアパートに暮らしていた。そのアパートには支援センターが付いていた。彼らの共同の居間でもある。



アパートや支援センターの活動について職員だけでなく、集まってくれた住人も説明してくれた。支援センターでは住人の投薬の管理の支援を重視していた。医療関係の職員はいないが、職員をバックアップする市の医療チームの支援をい

つでも受けられるようになっているようだ。



そして住人の案内でアパートの中も見せてもらった。



(3) 精神障害者の昼間の居場所 Det Hvide Hus



駅前にある白い建物が精神障害者の昼間の居場所である。前日に見学した住宅に併設した支援センターで支援を受けながら、併せてここでも支援を受けている人もいた。

ここでは洗濯もできる。音楽やビリヤードを楽しむこともできる。木工をする人もいる。一緒に夕食を作って食べる日もある。



投薬の管理や鍼治療（スタッフが短期間の研修を受けて限定的な治療を行うことができるそうだ）、その他に生活のいろいろなことを支える機能を持つ施設である。

精神障害の人を無理して働かせるという発想はない。



(4) 自然保育園



森の保育園といわれることもある。建物もあるが、ほとんどの活動を屋外でおこなっている。広

い敷地が活動の場である。

翌日の収穫祭に向けて歌の練習をしていた。



(5) フリースクール

デンマークではフリースクール法があって、公教育に位置付いている。

発達段階に応じて、学習時間や机の配置に工夫があった。



■デンマークの概要

*国名 デンマーク王国

*面積 約 4.3 万 km² (日本の約 10 分の 1)

*人口 551 万人 (2008/7)

*首都 コペンハーゲン (人口約 51 万人・首都圏約 187 万人、2008 年)

*人種 北方ゲルマン民族

*言語 デンマーク語

*宗教 福音ルーテル教 (プロテスタント)

*政治体制 立憲君主制・議合一院制・自由党と保守党などの中道右派連立政権

*通貨 デンマーククローネ (1 クローネ=約 17 円)

*一人当たり GDP 37, 265 ドル (2008 年、日本は 2007 年で 34, 326 ドル)

*経済成長率 3.4% (2004 年)

*失業率 5.5% (2006 年)

*主要産業 酪農、通信機器、医薬品、風力発電機、観光など

海の中に発電用の風車が並ぶ。



* 合計
特殊出生率 1.

83

(2007
年、日本
1. 34)

* 産休

と育児休暇 母親は産前 28 日 (4 週間)、産後 98 日 (14 週間)、父親は 14 日 (2 週間) 義務、どちらか取れる両親休暇 224 日 (32 週間)。合計産後 336 日 (48 週間)。何らかの給与支払対象と額は雇用主によって違うが、期間は大体 18 週間。

*10 歳以下の総人口は 68 万、うち 77% が保育園、保育ママ、学童保育を利用。0-2 歳児の 56. 1% が公共乳児保育か保育ママを利用、3-5 歳児の 94% が保育園を利用、6-9 歳児の 81% が学童保育を利用、10-13 歳児の 13% が余暇クラブを利用している。保育園の費用負担は基本的には国、自治体、親がそれぞれ 3 分の 1 ずつ。

■デンマークの地方制度改革

2007 年に制度の改革があって、市の統合が行われた。